# 修学支援システムのアクセス状況と学習への取り組みの考察

生田目康子*1・松崎秀規*2・本井進*3
Email: namatame@it.hirokoku-u.ac.jp

*1: 広島国際大学工学部情報通信学科
*2: 株式会社アイツー　代表取締役
*3: 株式会社アイツー　システムエンジニア

◎Key Words クラス担任制，修学支援システム，携帯電話，アクセス状況

## 1. はじめに

全入時代になり多様化する学生に対応するため，ほとんどの大学でクラス担任制が定着しつつある．このクラス担任制の基盤を拡充するために携帯電話を用いた修学支援システムを 2009 年に構築し，これまで継続運用し，その利用状況と問題点を報告してきた．

本研究では，修学支援システムへのアクセス状況と学生の学習への取り組みの結果として精子益について分析した結果を報告する．

なお，2011 年度入学した学生が，2011 年度の前期 15 週と後期 15 週の間に修学支援システムへアクセスした状況を対象とした．

## 2. 2011 年度のアクセス数の状況

### 2.1 週ごとのアクセス数の推移

2011 年度 1 年次 52 名について，前期 15 週，後期 15 週の修学 net へのアクセス状況の推移を図 1 に示す．

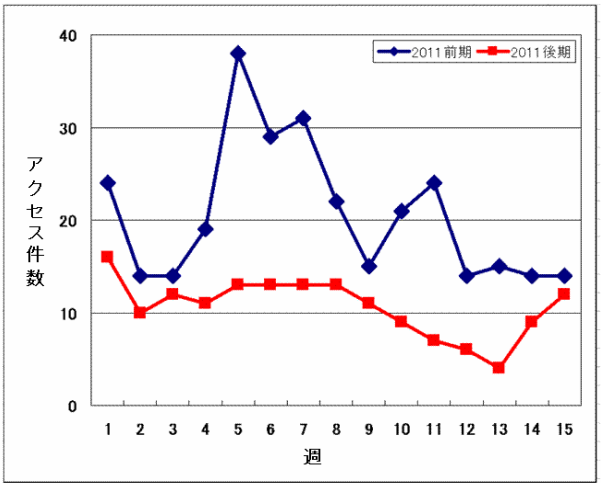


図 1　2011 年度の修学 net のアクセス状況

前期は学生一人当たり 5.9 回であり，後期は同じく 3.0 回であった．

前期と後期のアクセス数は，t 検定の結果，後期は前期に比べ有意に高い（p<.000）結果となった．

### 2.2 曜日ごとのアクセス件数

曜日ごとのアクセス件数を表 1 に示す．

表 1　曜日ごとのアクセス件数

| | 前　期 | | 後　期 | |
|---|---|---|---|---|
| 曜日 | 件数 | 比率 | 件数 | 比率 |
| 月 | 14 | 5% | 8 | 5% |
| 火 | 10 | 3% | 68 | 43% |
| 水 | 60 | 19% | 28 | 18% |
| 木 | 24 | 8% | 22 | 14% |
| 金 | 178 | 58% | 21 | 13% |
| 土 | 14 | 5% | 5 | 3% |
| 日 | 8 | 3% | 7 | 4% |
| 合計 | 308 | 100% | 159 | 100% |

前期の金曜日のアクセス件数は，前期全体の 58%を占め，後期の火曜日のアクセス件数は，後期全体の 43%を占めている．

その要因は，修学 net を推進する筆者が，必修授業を担当する曜日であることが大きく影響していると思われる．

### 2.3 アクセス時間帯ごとのアクセス件数

2011 年度の前期について，学生が修学 net にアクセスしてきた時間帯の状況を表 2 に示す．

表 2　アクセス時間帯ごとのアクセス件数

| アクセス時間帯 | 件　数 | 比　率 |
|---|---|---|
| 5 時～8 時 59 分 | 33 | 11% |
| 9 時～12 時 59 分 | 67 | 22% |
| 13 時～17 時 59 分 | 60 | 19% |
| 18 時～21 時 59 分 | 23 | 7% |
| 22 時～4 時 59 分 | 16 | 5% |
| 担当授業中 | 109 | 35% |
| 合　　計 | 308 | 100% |

担当授業中のアクセス件数が 35%を占めている．2011 年度前期は，プログラミング基礎の必修授業が該当した．パソコンでプログラムを制作する合間にアクセスしているようである．

22 時からの深夜の時間帯でのアクセス件数が 5%ほどある．

## 3. 修学 net のアクセスと成績評価

修学 net へのアクセス件数と 1 年次の成績評価のプロットを図 2 に示す．

1 年次のカリキュラムは，共通科目約 7 割，専門科目約 3 割の構成である．成績評価として取得した単位の評価（5，4，3）を合計した．

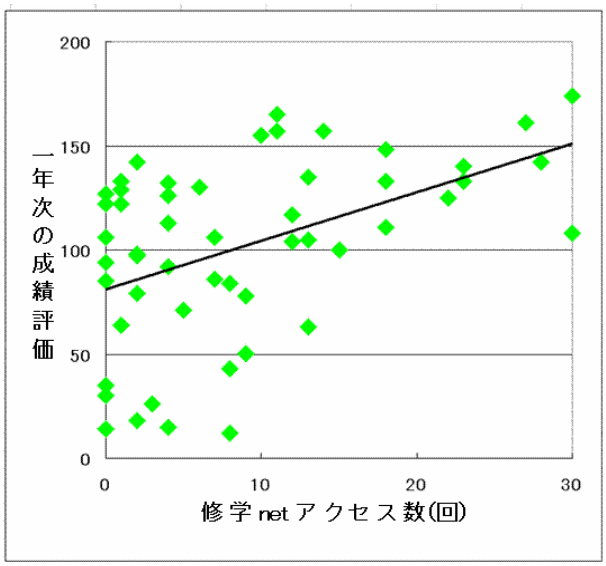


図 2　修学 net アクセスと成績評価

修学net への2011年度前期と後期のアクセス件数と 1 年次の成績評価との間の相関係数は, 0. 467（p<. 000）となり，両者には弱い相関があるといえる．

図 2 より明らかなように，修学 net に全くアクセスしない学生が 8 名いる．授業への欠席が多い学生である．

## 4. 考察

今回の分析を通じて以下の点を取り上げたい．

(1) 2011 年度 1 年次 52 名について, 前期 15 週, 後期 15 週の修学 net へのアクセス状況で, 前期は後期に比べ有意に高い結果となった．おそらく，多くの学生は大学生活の環境になれたためだと思われる．

(2) 曜日ごとのアクセス件数で，深夜（22 時～翌朝 4 時 59 分まで）にアクセスする学生の多くは，アルバイトやゲームなどが原因と思われる．

(3) 修学net へアクセスしない 8 名の学生のうち，欠席が多い学生は修学上の何らかの問題をかかえていると思われる．クラス担任と連携して学生のかかえているであろう問題への解決に協力したい．

(4) 修学 net のアクセスと成績評価に弱い相関があった．学生が日頃アクセスするのであるから成績に良い影響を及ぼしているとすれば，修学 net を安心して推進ができる．

## 5. おわりに

今後とも 修学 net を評価し，改善続けながら，運用を進めたい．

### 参考文献

(1) 生田目康子，松崎秀規：携帯電話を活用した全入時代の修学支援システム - クラス担任制の基盤拡充を目指して -，CIEC 研究会論文誌、vol.1, pp.130-133, (2010).

(2) 生田目康子，松崎秀規，本井進：クラス担任制の基盤拡充のための修学支援システムの期待される効果，CIEC 2010PC カンファレンス論文集，pp.449-452，(2010).